

# 「小河内」便り 第22号 平成25年3月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



連絡所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

会員、住民の皆様お元気ですか。いつも当法人の運営にご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
今年1月が往に、2月が逃げ、もう3月も去ろうとしています。

3月の滝山登山で今年度当法人のイベント活動は全て終わりました。この1年間ご協力ありがとうございました。地道な積み重ねが小河内の活性化になり、歴史を作るのでしょう。

今年度最後の便りをお送りします。

## 小河内の現況について

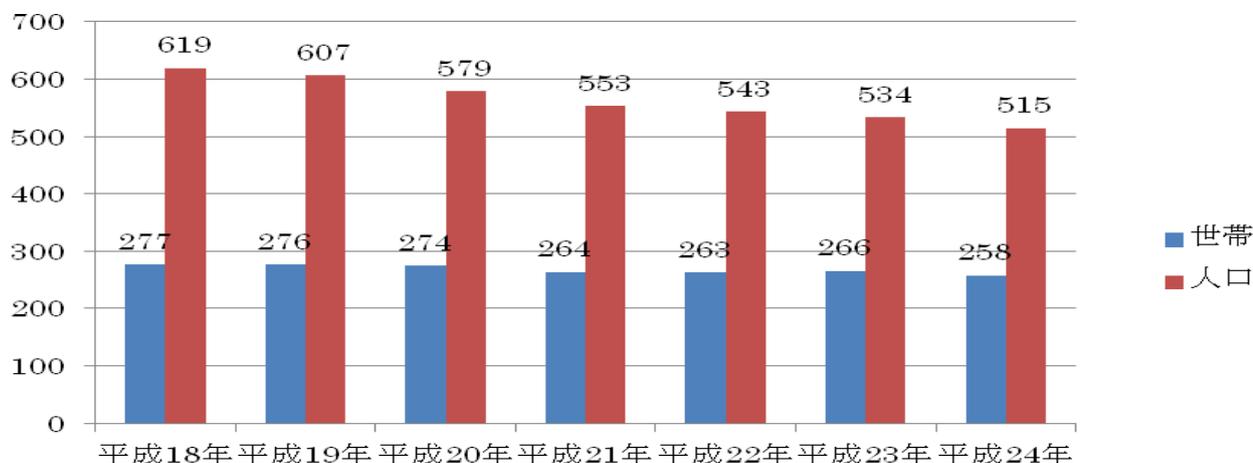
### (1) 人口、世帯、高齢率、児童数の推移

年（12月末）	世帯	人口（人）	高齢率（%）	児童数（人）
平成18年	277	619		20
平成19年	276	607	46.0	16
平成20年	274	579	47.5	14
平成21年	264	553	45.8	15
平成22年	263	543	48.6	13
平成23年	266	534	49.1	13
平成24年	258	515	50.7	10
平成25年				7（見込み）

※この6年間に人口は104人減、1年間約17人減、児童は半減した。

一方高齢率は50%を超え、市内最高になった。

### (2) 小河内の世帯数と人口推移

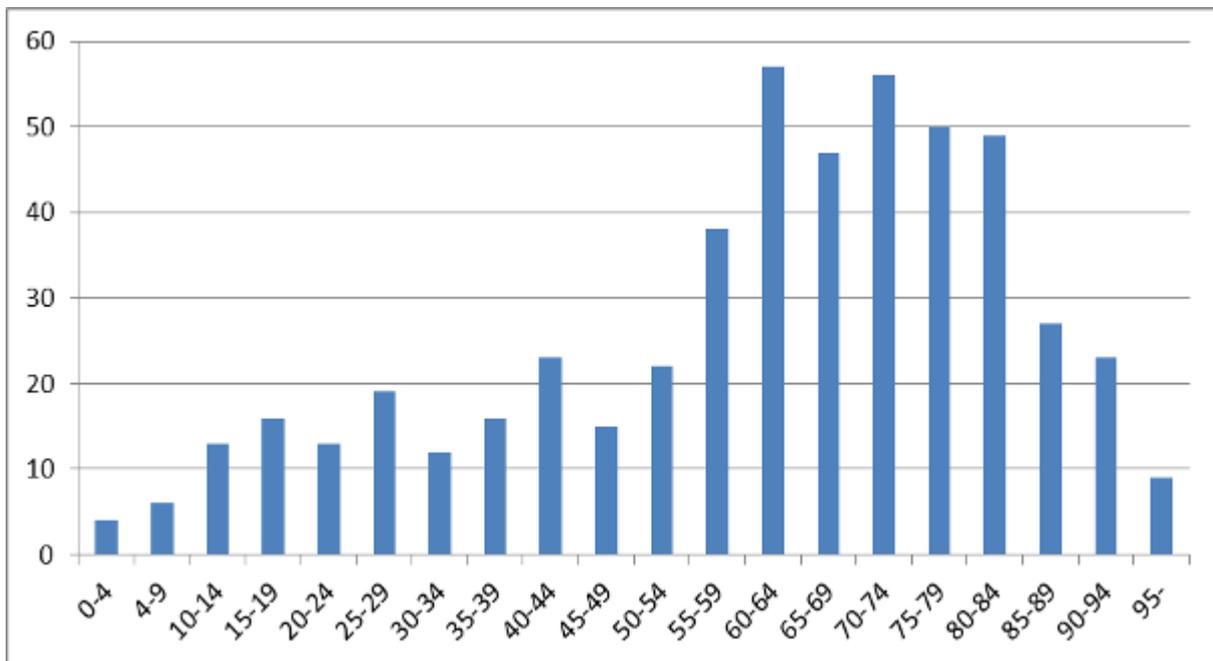


### (3) 年齢別人口の推移

年齢区分	平成20年6月		平成24年12月		差異	
	人	%	人	%	人	%
0-14	31	5.3	23	4.5	△8	△25.8
15-64	262	44.4	231	44.9	△31	△11.8
65-74	115	19.5	103	20.0	△12	△10.4
75~	182	30.8	158	30.6	△24	△13.2
計	590	100.0	515	100.0	△75	△12.7

※年少人口減（8人、26%）と生産人口減（31人、12%）、75歳以上が（24人、13%）少子高齢化が進行している。

### 小河内の年齢別人口（平成24年12月末）



※ 人口構造が55歳以上に大きくシフト、将来の大幅な人口減少構造を内在している。

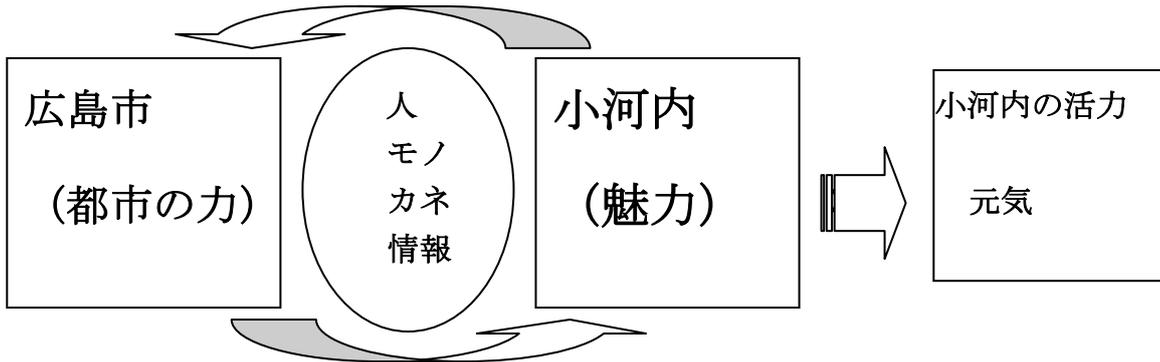
今、日本は人口減少、老いの社会に入っており、中山間地で規模の少ない小河内地区はこのグラフのように少子高齢化が顕著（時代の最先端）であることが分かります。この裏に過疎化が同時進行しています。

こうした時代潮流の中で小河内の持続可能な社会をつくるために今何をすべきか、当法人の使命がここにあります。今の過疎が過疎を呼ぶ、と言う負の連鎖を断ち切るため、小河内の魅力を発信、都市（広島市）の人、モノ、カネ、情報を循環させる仕組みづくりをしています。

小河内地区は急峻な地形で平野部がなく、高度成長期に工場進出や団地開発が行われず、今日も昔のままの豊かな自然や農村風景が残っている市内でも貴重な地区になっています。

こうした小河内の資源を生かし、都市住民を対象にした農業体験や暮らしを学び、体験する農村体験ツーリズムに昨年は小河内全住民を大きく上回る850人（推定、延べ）の都市住民が小河内を訪れ、小河内を楽しみました。住民の皆さんが、そんなに小河内にもええもんもあるんかの一、知らん人と話しをして元気をもらったよ、小河内の米や野菜がうまかった、と喜んでもらった、等々住民の皆さま

んが小河内は変わりよるの一、と小河内を見直し、住んでいるところに誇りを持ち、生きがいを持つ、この意識の変化が重要です。まちづくりには先ず住民の意識を変えることが重要です。



小河内の魅力を都市住民に発信、彼ら呼び込むことにより、人、モノ、カネ、情報が都市（広島市）と小河内を循環する仕組みを作ることにより、小河内の元気さ（活力）を創造する。

## 農村体験ツーリズム「炭焼き体験と交流会」

2月16日、昨年に引き続き、桜山窯で「炭焼き体験」ツーリズム行い、市内から35人が参加した。参加者は炭焼き名人の北岡智博さんや渡辺興雄さんの指導で窯の中に入り、予め焼いた木炭を取り出したり、取り出した後、次に焼く原木を窯の中に入れる作業を行い、炭焼き体験をした。



釜に原木を入れる体験をする参加者



釜から取り出したばかりの木炭



交流会でバーベキューを楽しむ参加者



孟宗竹で炊き飯、美味しい臭いに楽しみが増す

## 農村体験ツーリズム「滝山登山と交流会」

3月9日(土)好天に恵まれ早春の滝山登山に都市住民や地元から10歳～78歳まで53人が参加、下山後の交流会で地元集落の主婦が準備したコーヒーを飲みながら、楽しいひと時を過ごした。又、地元の農産物や餅などの買い物を楽しんだ。



小河内楓原から見た滝山（富士山に似て美しい）



2月末、倒木の切断や登山道整備をした



矢が谷集落跡で説明する前戸誓さん（86歳）  
（写真は昨年のももの）



下山後、交流会でくつろぐ参加者



川崎市から参加した同級生が談話  
写真右は会場を提供した松田会長夫妻



地元黒瀬集落の主婦がコーヒーや餅等を準備  
交流会を盛り上げていただいた

## 可部牡蠣祭り | N可笑屋

2月9日、可部カラスの会とバーベキューで交流会をした



可笑屋の裏庭でB B Qで盛り上がる参加者



弥太郎君を実演しながらPRする渡辺理事長（中央）と原本理事（右）

## ハウス「食と農と環境の体験教室」 | N広島、参加者募集

ハウス食品株式会社は、子供たちに食と農と環境の大切さを、親子で農業体験を通じて学ぶ教室を全国で（中国・四国地方では唯一小河内地区で）平成23年度より開催しています。

同社のホームページに募集要項等アップされていますが、概要は下記の通りです。

ご希望の方は下記によりお申込み下さい。

### 募集要領

日程：5月25日（土）・7月27日（土）・9月21日（土）・11月17日（日）4回

時間：9：30～16：00（予定）

募集人数：10家族（1家族5名まで、小学生以上のご家族で通し参加可能な方）

応募者数が募集人数を超えた場合は抽選。

参加費：1人に付、年間2000円

申し込み方法：Web FAX もしくは はがきで下記申し込み方法でして下さい。

締切：Web FAXは平成25年4月21日（日）24：00まで受付

はがき、は平成25年4月22日（月）必着

はがきの場合は 〒102-8560 東京都千代田区紀尾井町6-3

FAXの場合は 03-5211-6029

ハウス食品株CSR部ハウス「食と農と環境の体験教室」宛お送りください。

### 申し込み方法（ご参加希望の方）

- ・代表者の名前、性別、年齢
- ・郵便番号、住所、電話番号（固定及び携帯）、Eメールアドレス
- ・集合場所（JR「広島駅」新幹線口 又はアストムライン「中筋駅」前かを記入）
- ・代表者以外の家族情報（名前、性別、年齢）

ご不明の点は当法人事務局担当：中野までお問い合わせ下さい。

E-mail [nknej@yahoo.co.jp](mailto:nknej@yahoo.co.jp)

携帯 090-6874-3284

# 牛頭山の高さについて

今般、滝山登山に川崎市から参加された小河内出身の河北幸夫氏（当会員）から、下記のような質問を国土地理院にされ、同院から回答があった旨、電子メールで頂きましたので、ご紹介します。

## 〈河北幸夫氏の質問〉

今回参加した、滝山登山で、「滝山（692.7m）は、牛頭山より3m高い」と説明された（つまり牛頭山は689m）。しかし、国土地理院 平成10.6.1 加計によると牛頭山は672.6mと表示されており、20メートル高いことになる。

牛頭山は、通称小河内牛頭、飯室牛頭と呼称され、2つの頭からなる。2等三角点は飯室牛頭にあり、それが地図に表示されている。通常高い方を指すはず、何故、高い方を測量して、地図上に表示しないのか？ 尚、現実に小河内牛頭山頂上には、広島市が689mの標識表示を掲出している。

どうしてこのようなことになったのか？ 教えてください。

## 〈国土交通省国土地理院の回答〉 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 <http://www.gsi.go.jp/>

三等三角点「牛頭山」は明治時代、一等三角点測量網（三角点間平均距離4.5km）を骨格として、一等三角補点（同2.5km）、二等三角点（同8km）、三等三角点（同4km）で設置されました。

これらのことにより、配点密度や、他の三角点との視通が良好なこと、設置しやすい場所であるかなど、総合的に判断して設置します。したがって、更に高いピークが近くにあっても三角点を設置しないケースもあります。また、国土地理院の電子国土ポータルに掲載される地図情報及び刊行図を調査した結果、「牛頭山」の表示位置に誤りがあることを確認しました。

国土地理院の地形図等に地名を表示する際は、当該自治体の了解のもと実施しております。「牛頭山」の表示については、昭和42年に2万5千分1地形図「飯室」を改測する際に実施した広島県安佐町への地名等に関する確認から、二つのピークの間地点に表示するように申請がされておりますが、当院の手違いにより現在表記する位置に誤表記したものです。

上記から、「牛頭山」の表示位置につきまして、昭和42年確認時の正しい位置に訂正を致します。なお、訂正には少し時間をいただく状況となっておりますのでご理解のほどよろしくお願い申し上げます。この度は貴重なご指摘情報を賜り、感謝申し上げます。

## 訂正

小河内便り15号、及び21号で滝山の高さを691mと記載していましたが、692mです。

お詫びして訂正します。河北幸夫氏から指摘されました。河北様ありがとうございました。

## 編集後記

3月は学校の卒業式、官公庁や多くの企業では人事異動、転勤、定年退職、等で別れの月。

一緒に学び、遊んだ友とも所定の学業を終えれば卒業と言う別れがある、組織の永続性と発展、活性化の為には、組織の改正に人事異動が行われ、同じ釜の飯を食べ苦楽を共にした職場の同僚や上司等、親しい人や世話になった人とも別れる時が来る。私たちは、会者定離、生者必滅と言う、厳しい掟に生きている。会うは別れの始め、会った時から別れが待っている。

この3月、小河内小学校を3人卒業、去って行く。市内で少子高齢化が最も進んだ小河内地区、小河内のDNAを引き継いだ彼らは小河内の宝である。大海の空気をいっぱい吸い大きく成長して故郷小河内に帰って欲しい。(S)